

認定NPO法人 北海道自由が丘学園・ともに人間教育をすすめる会

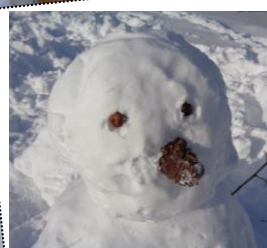
(振込先:郵便局 02790-6-9847 北海道自由が丘学園をつくる会)

〒062-0051 札幌市豊平区月寒東1条15丁目5-11 TEL(011)858-1711 FAX(011)858-1333

URL <http://www.hokjioka.net>

E-mail : [codmokan@agate.plala.or.jp](mailto:codmokan@agate.plala.or.jp)

支援会員・寄金 3,000円 (年額)  
\*会員には、本通信を配布します。



## <「2月のある日」>

札幌は例年になく大雪。特に2月初めは捨て場がない位=1日60cm! スクール前公園に出て、思いっきり深雪とたわむれました。小中学生も学生さんも一緒にです。(別日、建物前除雪も手伝ってくれました)

## INDEX

- P1: 巻頭言
- P2: ヒューマントラスト/諸活動
- p3: ↓ 年次会費納入他
- p4-5: 大学生実習レポート
- p6-7: スクール活動から
- p8: エッセー、カンパニー、後記  
[チラシ、案内他]

## 「戦争と平和、戦争と人間など~国家の暴力=軍事を超えて」

認定NPO法人・代表理事 吉野 正敏

表題はトルストイ、五味川純平の小説です。国と国の対立が、「自衛」や「正義」の名の下に軍事侵略し人間の生命・財産・未来を奪う戦争は、互いの国民にとっても殺し合いや様々な抑圧/支配を伴う悲惨なものです。加えて近代史では、第1.2次世界大戦から強力な兵器・道具が使用され、取り返しのつかない大量破壊・非人道的行為が拡大しました(戦車、潜水艦、毒ガス・核兵器・劣化ウラン、無人機)。

今、ウクライナで起きている事は、軍事大国が行う他国への一方的な攻撃です。市民がリアルタイムに迫害され、座視させられる私たちは時に無力観に囚われます(以前のイラク、クアア半島、アフガニスタン等々)。

国連はこの様な戦争を繰り返さないために設立されたにも関わらず、常任理事国の利害により役割を發揮できていません。国際法逸脱が明らかであり武力弾圧を直にでも止めさせるために、経済的対抗/制裁もさることながら民主的陣営の国/市民が叡智を集め手立てを發揮せねばなりません。ロシア市民の行動は救いの1つですが、国連事務総長自らが停戦仲介に入ることも求められます。

小説は戦争の悲惨さ不合理さに翻弄される人々が描かれ、映画ではそれらを象徴するシーン\*が印象的です。ロシア文学では古典\*\*も多く、(敗走する)白軍兵士を描いた「静かなドン」の大河や「雪どけ」に昔暮された記憶があり、その後の「煉獄の中で」「ガン病棟」「ドクトルジバゴ」、更にルポ「戦争は女の顔をしていない」(作者はウクライナ生、ベルリン在住)は権力と人間の軋轢をリアルに表現しています。

今の民族主義的専制や軍事力のパワーゲームなどが歴史の歪流/あた花となることを願いながら、反戦・平和のため、より民主的な社会形成のために、出来ることをせねばと思います。

注\*「誰がために鐘は鳴る」/主人公が倒れた戦場に静かに舞う蝶。「カサブランカ」/想い人を国に還し戦地に残るヒーロー...

\*\*学生時代は上記作品+ツルゲーネフ、ゴーゴリ、チェーホフ、ドフエフスキーやロシア民謡(ウクライナを流れる「ドニプル川」)等との機会あり。

加えてフランス(ゾラ他)・ドイツ(ヘッセ他)・イギリス(モーム他)・アメリカ(スタインベック・レマルク他)等の文学は、「未知の世界」に誘ってくれた。日本文学も多々、中でも「野火」「妻と兵隊」「石狩平野」「火垂るの墓」などは戦争/時代を切取ったものとして推奨。